

県・番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
福島-1	つちゆ	つちゆ ロードパーク	福島市	国道115号	<p>福島県における「道の駅」登録第一号。標高770メートルの高原に建っていて、「道の駅」の駐車場やテラスには展望デッキがあり福島市街地が一望できるほか、天気の良い日は北の方角に蔵王連峰の山々を見渡すことができる。「道の駅」は土湯温泉の玄関口にあたるほか、福島市と会津地方の猪苗代町をつなぐ国道115号の中間点にあり、観光客の通過が非常に多い。また、「道の駅」から土湯温泉や岳温泉、飯坂温泉、高湯温泉などの名湯に行くことができ、絶好の温泉めぐりの中継点となっている。</p> <p>手軽に食べられる「こんにゃく」が名物。串に刺した「ちぎりこんにゃく」はしょうゆ味と田楽みそ味の2種類あり、なかなかの人気だ。また、こんにゃく粉を使用した「こんにゃくアイス」は、ストロベリー＆ミルク、桃、塩、あずきミルク、バニラチーズの6種類ある。こんにゃく粉が入っているため溶けにくく、柔らかくなても垂れにくいのでゆっくり味わえる。</p> <p>福島市のフルーツラインに近く、果物も豊富だ。季節の新鮮果物が販売されていて、年間を通してサクランボ、モモ、リンゴなどが販売される。春の山菜、季節の野菜もさまざま並べられ、食堂で味わうこともできる。</p> <p>福島県産伊達鶏と国産野菜を使用した、峠のおやき「たべらんしょ」も人気の一品。そばメニューは季節によって変化するが、テラスからの景色を楽しみながら、土湯のそばを味わうことができる。</p>
福島-2	川俣	オアシス inシリクロード	川俣町	国道114号	<p>川俣町はシルクと川俣シャモが代表の町。伝説によると、いまから1400年ほど前、崇峻天皇の妃だった小手姫が、蘇我馬子に追われた皇子を探してこの地方にたどり着き、桑を植えることから養蚕、糸つむぎ、機織りまで教えて絹織物を伝えとされている。川俣に限らず、ここ福島県中通り地方は養蚕・製糸が盛んで、明治から昭和の前半まで、欧米輸出の花形で、長く生産量日本一だった。なかでも川俣シルクの品質は評判で、海外貿易に貢献した。</p> <p>もう一つの特産品の川俣シャモとは、絹織物で富を築いた製糸業者が、闘争心が激しいシャモの闘鶏に夢中になり、シャモ飼い農家が多くなったことがはじまり。シャモ肉のおいしさが広まり、川俣ではさまざまなシャモ料理が考えられた。</p> <p>このふたつの名物を売りにしているのが道の駅・川俣だ。敷地内には織物の歴史、伝統技術、生活文化を紹介する「おりもの展示館」、織機、染色を体験できる「からりこ館」、町の特産品販売の「かわまた銘品館シルクピア」、農産物直売所「ここら」、川俣シャモレストラン「シャモール」がある。</p> <p>おりもの展示館とからりこ館で川俣のシルクとシャモについて学んだ後は、シャモールで川俣シャモを堪能し、シルクピアと愛菜館でお土産を購入するのも良いだろう。</p> <p>また2年前には敷地内にドームが建設され、その中に冬季間、巨大スノードームイルミネーションが登場する。このスノードームはクリスマス、お正月、バレンタインと月替わりの3パターンのバージョンで飾られる。</p>
福島-3	たじま	会津西街道たじま	南会津町	国道121号	<p>北関東から会津に入る際の玄関口に建つ「道の駅」。国道121号沿いにあり、関東から東北に訪れる観光客を迎える玄関口の役割だ。外に並んでいるテント屋台では会津独特の農産物や工芸品、山の幸が購入できる。特に南会津ブランド品のアスピラは朝取りで新鮮なためとても人気となっている。</p> <p>北関東や日光方面からは、国道121号にある山王峠を越えて「道の駅」に立ち寄ったり通り過ぎたりして、会津田島の手前で国道352号との交差点にたどり着く。この国道352号を先に進むと桧枝岐や尾瀬湿原方面に、国道121号をそのまま進むと会津田島や会津若松方面に向かう。日光方面から会津に入る時の通り道に「道の駅」があることになる。</p> <p>物産館に入ると目につくのが木工品だ。南会津町の山でとれる木材で作ったまな板、そばを延ばすめん棒、そば鉢、お盆、積み木、お椀、マグカップのほか、間伐材で作った割り箸などもある。</p> <p>山の恵みの代表格は山菜とキノコで、他と比べても別格のおいしさ。4月中旬から6月下旬ころにかけてフキノトウから始まり、ウド、ウルイ、ワラビ、コゴミ、タラの芽、シドキ(シドケ)、ミズナ(ウワバミソウ)といった地元の山菜が並ぶ。秋のキノコはマイタケ、コウタケ、ナメコ、ムキタケ、ホンシメジ、シイタケなど数えきれない生キノコや加工したキノコが店頭を飾っている。</p> <p>南会津町は南郷トマト・モモタロウの本場、夏のトマトを雪の冷気で冷やして出荷している。道の駅・たじま限定販売商品の南会津産トマトと赤ワインで煮込んだ「美味しいキーマカレー」がお土産におすすめ。</p>
福島-4	安達	智恵子の里	二本松市	国道4号	<p>彫刻家で詩人の高村光太郎が愛した智恵子はこの町の生まれ。明治時代の女流画家の先駆けだった。智恵子の生家は裕福な酒造家で、「花霞」という銘柄の日本酒を作っていた。生家は復元され智恵子記念館として見学することができる。道の駅・安達の愛称は智恵子にちなんだもので、生家から安達太良山がよく見える。</p> <p>この「道の駅」は、全国的にも珍しい国道を挟んだ「道の駅」となっている。交通量が多い国道4号沿いにあるため、直接行き来はできないが、県道を使って反対の施設に行くことができる。</p> <p>先に建設されたのは上り車線側で平成8年。下り車線は17年後の平成25年にオープンした。上り車線側は、駅舎内に入ると、レストラン「もめん亭」があり、名物「びっくりソースかつ丼」が食べられる。井から数枚のソースカツが山のように立ち上がっており、まさにびっくりな丼である。</p> <p>また「道の駅」としては珍しい「和紙伝承館」があり、手漉き体験ができる。この地域ではもともと紙すきが盛んで、昔から良質な和紙を生産していた。その伝統工芸を売りにして、なかなかの人気になっている。</p> <p>下り車線側の人気店は50種類以上のパンが並ぶ「二本松ベーカリー」。施設に入ってすぐの所にあり、焼き立てパンのいい香りが食欲をかきたててくれる。レストラン「道ナカ食堂」の人気は、「ざくざく」を使った「ざくざくカレー」だ。「ざくざく」とは、サトイモ、ニンジン、ダイコンなどの野菜を1センチくらいのサイズに角切りして煮た郷土料理だ。知る人ぞ知る料理だったが、「道の駅」が様々な角度から取り上げ、いまでは二本松を代表する人気郷土料理となった。</p>

県・番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
福島-5	喜多の郷	ふれあいパーク 喜多の郷	喜多方市	国道121号	<p>道の駅・喜多の郷は、喜多方ラーメンと蔵で有名な喜多方市にあり、「道の駅」のいくつかある建物は、白壁や煉瓦造りとなっている。一番手前の建物は観光案内所で、喜多方をはじめ、会津若松など周辺の観光や食のパンフレット、マップなどがそろっており、案内の人も常駐している。</p> <p>その隣の建物には地域の特産品販売店「はくちょう」とレストランが入っていて、喜多方の伝統と食文化を味わうことができる。喜多方の伝統工芸品は漆器と桐製品。漆器は漆の塗り椀、酒器、菓子器、塗り箸などが並び、桐製品は下駄、小箱がある。また喜多方市は日本酒の酒蔵が複数あり、醸造元は10社ほど。醸造元定番の日本酒から、時期による限定酒までさまざま取り揃っている。</p> <p>レストラン「ふるさと亭」の看板メニューはしようゆ味の「喜多方ラーメン」。そのほか、「喜多方ラーメンバーガー」「ラーメンピザ」「ラーメンチ」という変わり種メニューも揃っている。会津地域は日本有数のソースかつ丼地帯としても知られている。ブランド豚の「麓山高原豚」を使用したとんかつに、独自フレンドしたソースがかけられた「ソースかつ丼」も人気の一品となっている。</p> <p>温泉施設「蔵の湯」の泉質は単純温泉で、美肌・慢性皮膚病・慢性関節リウマチ・神経炎神経痛・慢性筋肉リウマチ・痛風・頭痛・婦人病・じんましんなどの効果がある。</p>
福島-6	裏磐梯	裏磐梯 ピューパーク	北塙原村	国道459号	<p>明治21年(1888)に起きた会津磐梯山の噴火では大規模な岩屑なだれが起き、いくつかの川がせき止められ、川の水が溜まってきた檜原湖沿いに建つ「道の駅」だ。「道の駅」の2階は展望台になっており、四季によって魅力が変わる檜原湖や会津磐梯山などの景色を堪能することができる。</p> <p>物販施設のメニューは農産物直売所で、近隣農家より集荷してきた朝採り野菜が並ぶ。年間を通してさまざまな農産物が並び、人気のアスパラをはじめ、高原トウモロコシ、高原ダイコンのほか、春の山菜であるフキ、ウド、ウルイ、コゴミなど、みずみずしい山の幸が盛りだくさん。フルーツでは夏はモモ、ブドウ、秋はナシ、リンゴがメニューとなる。</p> <p>お土産コーナーには「桜峠のハニーワイン」「磐梯高原純粋はちみつ」「会津山塩商品」「ササゲ豆缶詰」、地酒「佳き酔・歌磐梯」が人気となっている。会津山塩とは、磐梯山麓の深い地層に太古の海水が閉じ込められた熱水があり、大塩裏磐梯温泉となって湧き出したもので、温泉水を薪窯で4~5日煮つめ乾燥させたもの。袋入りの塩のほか、お土産用「山塩ラーメン」「山塩大福」「山塩プリン」などがある。</p> <p>レストラン檜原亭では、喜多方ラーメン、山塩ラーメン、手打ちざるそばソースヒレカツ丼セット、きのこ山菜そばと地元食材を使ったメニューが揃っている。ここでしか食べられないメニューには「檜原湖いわなの握り定食」があり、早稲田産高原大根の握り付きもおすすめだ。</p>
福島-7	ならは	Jヴィレッジ 湯遊ならは	楢葉町	国道6号	<p>東日本大震災で引き起こされた原発事故。流出する放射能拡散のため、楢葉町では全町民が避難させられた。道の駅・ならはも同様で長期間の休業を余儀なくされ、再開できたのは令和元年4月25日で、約8年ぶりに温泉施設、レストラン、売店が先行再開した。翌年には物産館も再開することができ、ようやく通常の形に戻ることができた。</p> <p>「道の駅」に隣接する源泉からお湯を引いた人気の温泉が復活し、町内外の人たちに喜ばれている。塩化物泉、ナトリウム強塩化物泉で、特徴は黄褐色透明で黒い湯の花が浮いている。効能としては、肩こり、神経痛、やけど、切り傷、慢性皮膚炎など。発汗作用が強いので解毒(デトックス)効果があり、美肌効果のある成分も多く含まれていて女性に喜ばれている。物産館2階には整体コーナーがあり、ベテラン整体士さんが湯上がりの体をほぐしてくれる。</p> <p>フードコートメニューは30種類もあり、そのなか一番人気は「ならは海鮮タンメン」。続いて「カレー味噌ラーメン」「シラス丼」と続く。シラスは近くの浪江町請戸漁港に上がった新鮮なシラスを窯ゆでにしたもので、下のご飯が見えないほど丼に敷かれ、その上にどろろがのせられている。楢葉の伝統料理に「すいとん」があるが、当時サッカー日本代表の監督だったトルシエ氏が、生まれ故郷フランスのおばあちゃんが作る味に似ていると言ったことから「マミーすいとん」と名付けられたが、その「マミーすいとん定食」も提供されている。</p>
福島-8	そうま	未来本陣SOMA	相馬市	国道6号	<p>令和4年3月の地震被害により半年間休業したが、令和4年10月20日にリニューアルオープンした。「相馬野馬追」の陣屋をイメージした建物外観はそのままだが、内装などを変えて、全体の雰囲気を一新した。</p> <p>以前は魚介類販売がメニューだったが、リニューアル後は農産物販売に力を注ぎ、野菜とフルーツを多く並べるようになった。入り口を入れると農産物を置く食品棚が並び、地元の野菜・果物を中心としている。</p> <p>レストランは肉メニューを中心とした内容になり、金助漬の特製豚ロース定食、相馬キムチと福島県産豚の豚キムチ定食が売りである。</p> <p>ソフトクリームの販売のほか、地元産フルーツを使用したスムージーを季節限定で販売していて、人気は殿様ミルクソフトクリームだ。</p> <p>惣菜では地元の漁港に水揚げされたカレイの唐揚げや相馬特産の海藻のあおさ関連商品に力を入れている。</p>

県・番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
福島-9	はなわ	天領の郷	塙町	国道118号	<p>東北最南端の「道の駅」。江戸時代の道、旧水戸街道沿いにあり、関東からの玄関口の一つだった。江戸時代は幕府の天領で、塙代官所が置かれていた。現在も代官所跡が史跡として保護されている。</p> <p>塙町は昔から農業が盛んで、「道の駅」の農産物直売所の売り場の多くを野菜が占めている。特に根菜類や葉物野菜がたくさん並んでいる。ほかにも、コンニャク芋も生産されていて、手作りコンニャクが並べられている。また、塙町は稻作も盛んで、「道の駅」では自慢のコシヒカリなどのお米も販売している。</p> <p>代官所があった歴史の町塙には、お菓子屋さんが多い。陣野菓子店、坂本屋菓子店、さくらや菓子店、和菓子司まさき、パティスリー一仲屋などの菓子店の和洋菓子やパンが「道の駅」にも置かれている。</p> <p>町内には木工細工に取り組む人が多く、その成果は「道の駅」で見て購入することができる。ケヤキ細工、竹細工などのほか、手作り陶器もある。</p> <p>お食事処「天領」は眺めがよく、久慈川と田園風景の景色を楽しむことができる。店内では「天ざるじゅうねんうどん」を注文する人が多い。そばや丼ものの定番もそろっていて、大いに満足することができる。</p> <p>軽食コーナーでは、季節限定のコンニャク粉を練り込んだ「すいとん」ならぬ「すいこん定食」や、町の花「ダリア」をイメージした「ダリアソフトクリーム」がおすすめだ。お土産品として、塙町産大麦で蒸留した本格焼酎「水鞠」がある。ほのかな香りとすっきりとしたキレのある味わいとなっている。</p>
福島-10	会津柳津	会津福満 虚空蔵尊街道	柳津町	国道252号	<p>福島県柳津町を流れる只見川が大きく蛇行する崖の一角に、福満虚空蔵菩薩圓蔵寺（ふくまんごくぞうぼさつえんぞうじ）というお寺がある。虚空蔵尊とは福と智慧を授けてくれる仏様で、ここは日本三大虚空蔵尊の一つとされている。今から1200年以上前に建立された寺院だが、建造する際の木材運搬を担った多くの赤毛の牛がいたとされる。その牛から忍耐と力強さが伝わることから、福を運ぶ「赤べこ」として人々に親しまれるようになったのが民芸品「赤べこ」で、このことから柳津は「赤べこ」発祥の地とされている。</p> <p>円蔵寺の対岸にあるのが道の駅・会津柳津である。「道の駅」の入り口には大きな「赤べこ」が置かれていて、迎えてくれるのは赤べこ親子の娘「愛ちゃん」だ。店内では「赤べこ」グッズも販売している。</p> <p>ここには二つの名物メニューがある。一つは地元産のそば粉100%で打たれる十割そば。つるつとしたのど越しのそばを、地元でとれる野生の辛み大根のしづり汁につけて食べる「高遠そば」は、辛みと野性味最高の一品だ。もう一つは「柳津ソースカツ丼」。会津地方は全国指折りのソースカツ丼地帯だが、柳津のソースカツ丼は他と一味違う。丼の中のご飯とソースカツの間に、薄く焼いた卵とキャベツが敷かれており、茶色のソースカツをよくと出でてくる卵焼きの黄色は美しい。さらに進化系として「ソースカツバーガー」を開発し話題となっている。</p> <p>お土産品の代表格は「あわまんじゅう詰め合わせセット」。柳津虚空蔵尊の門前には名物「あわまんじゅう」の名店が4軒ある。その中の3軒の詰め合わせセットで、各店の食べ比べができる。</p>
福島-11	ふくしま東和	あぶくま館	二本松市	国道349号	<p>「豊かな自然、温かい人とふれあえる、遠くからでも訪れたくなる」ような「道の駅」を目指している。</p> <p>道の駅・ふくしま東和のある地域では、旧東和町時代から地域特産の桑の葉や桑の実加工・販売を行ってきた。「道の駅」の直売所では減農薬から有機栽培までの新鮮な「東和げんき野菜」として、自主基準を通った野菜のみを販売している。そのほか、野菜の無駄をなくすために開発した里山ソース、地元酒蔵の酒粕を使った酒粕アイス、いちじくジャムや蒸しパンなど、さまざまな加工品を開発し、販売している。</p> <p>手作りジエラートショップ「NATURE（ナチュレ）」では、桑の実・桑の葉・からしななど、地元食材を使った手作りのジエラートや、期間限定のジエラートを提供している。</p> <p>中華料理 大榮餃子房は中華メニューが並ぶ。人気御三家は「中華そば」「特製焼き餃子」「日替わりおすすめ定食」。焼き餃子は焼き小籠包のようなまんじゅう型をしていて、皮のもちもち感が特徴。スープと漬物はセルフサービスとなっていて、おかわり自由なのでお客様に喜ばれてい る。</p>
福島-12	にしあいづ	よりっせ	西会津町	国道49号	<p>福島県いわき市と新潟県新潟市を結ぶ国道49号の県境近くに建つのが道の駅・にしあいづだ。江戸時代は会津若松と新潟の新発田を結んでいた越後街道の宿場町として栄えた歴史を持つ。町内には会津ころり三觀音のひとつ「鳥追觀音」や、どのような願いでも聞いてくれるという「大山祇神社」（おおやまとみ じんじゃ）があり、参拝客が絶えることがない。</p> <p>『人、食、文化』のターミナル！よりっせが「道の駅」のコンセプト。「よりっせ」とはこの地方の方言で「寄ってください」の意味。道路を通る人、町内に住む人、皆さん立ち寄って交流してくださいという思いで「道の駅」の愛称とした。</p> <p>健康な身体は健康な食べ物から、健康な食べ物は健康な土からということで、ミネラル分をバランス良く含んだ土壤で栽培した野菜は、西会津町こだわりの健康素材で、町ではミネラル野菜の栽培、活用、販売を進めてきた。「道の駅」でもそのコンセプトを推進し、「にしあいづ健康ミネラル野菜普及協会」の会員が栽培した野菜を販売する、「ミネラル野菜の家」というコーナーは大変人気だ。</p> <p>町は沖縄県宮古島市と大宜味村と交流をしていて、「道の駅」内には宮古島コーナーがある。沖縄までいかなくても泡盛、シークワーサー、サーティアンダギー、各種缶詰など非常に多くの沖縄物産を購入することが出来る。</p>

県・番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
福島-13	尾瀬街道みしま宿		三島町	国道252号	<p>道の駅・尾瀬街道みしま宿の尾瀬街道とは江戸時代の道で、会津坂下から柳津～三島～沼沢湖畔～金山～只見～南郷～伊南～桧枝岐～尾瀬湿原と進んだ道をいう。一般に沼田街道と呼び、群馬県の沼田まで通っていた街道だ。この道は現在の国道252号と352号のもととなった。三島はこの街道有数の宿場だったことから、この名前が付けられたのだ。</p> <p>「道の駅」の駅舎正面は、全面ガラス張りとなっているため中は明るく開放感がある。ここに地域特産の桐製品がたくさん並べられている。三島で植林されている桐は「会津桐」という最高品質のもので、国宝級文化財の桐箱などにも使われているほど。桐たんす、桐下駄などが並ぶが、特筆ものは桐炭の粉を練りこんだ「桐炭(きりたん)ソフトクリーム」で、味はほぼチョコレート。なかなかお目にかかれないので真っ黒なソフトである。</p> <p>食堂では会津地鶏メニューが多くあり、会津地鶏唐揚げ定食、親子丢、カレーなどが食べられる。</p> <p>令和4年10月1日、11年ぶりに復活したのが全国屈指の秘境線・只見線。沿線住民の足として重要な路線だが、車窓からの絶景でも知られている。「道の駅」の近くに只見線有数の撮影スポット第一只見川橋梁がある。「道の駅」から整備された歩道橋を使い歩いて行ける。</p>
福島-14	たまかわ	こぶしの里	玉川村	県道208号	<p>玉川村には福島空港が置かれているほか、自動車専用道路のあぶくま高原道路のインターチェンジもあり、非常に便のよい村である。</p> <p>あぶくま高原に位置し、阿武隈川が運んだ豊かな土壌に恵まれ、朝夕の温度差がある標高差400mという立地のおかげで、高原から熱帯の野菜まで栽培する事ができる。農家は昔からその利点を最大限に活かし、独自の工夫とノウハウでさまざまな栽培方法によって優れた農産物を作り出してきた。豊富なアイディアを持つ「玉川村 農の達人」たちによって作られた農作物は、消費者の健康を守り、日本の元気を作っている。</p> <p>「道の駅」にはその新鮮な野菜が豊富に並び、特にキウイフルーツの原種である「こくわ」(サルナシ)の栽培が盛んなため、「全国さるなし・こくわ連絡協議会」の「第1回全国さるなしサミット」がこの村で開催されたほど。「道の駅」では生のサルナシ以外に、サルナンのサイダー、ワイン、ドリンクを販売している。</p> <p>そのほか、「しぶりトマト」という名前で、トマトのジュース、ジャム、ドライフルーツにした「トマトドライ」「トマト粉末」「トマトの塩」などを置いている。また空心菜にも力を入れていて、空心菜を練りこんだうどん、ラスク、豆菓子も購入できる。</p> <p>東京に近いということから、都内のデパートやイベントにも積極的に参加し、野菜や果物の直販を行ったり、レストランなどの専門店にイタリアン野菜など、個性的な農産物を直接卸している。</p>
福島-15	羽鳥湖高原	羽鳥湖ふれあい広場	天栄村	県道37号	<p>福島県中央部にある羽鳥湖高原は、中通りと会津に挟まれた平均標高600メートルの高原であり、「道の駅」は須賀川から会津に向かう国道118号沿いにある羽鳥湖の南側に位置している。</p> <p>羽鳥湖高原はアウトドアとリゾート的要素が強い高原で、アウトドアグッズメーカーのコールマンが経営するオートキャンプ場「レジーナの森」や「羽鳥湖畔オートキャンプ場」、「パスポートのいらない英国」が売りの「ブリティッシュヒルズ」、数々のベンションや別荘、スキーエーカー、ゴルフ場などが周辺に数えきれないほどあり、独特の雰囲気を醸し出していて首都圏からの客も多い。</p> <p>天栄村はむかしから知られた農業地帯で、天栄村の農作物御三家は天栄米、天栄ヤーコン、天栄長ねぎ。特に天栄米は米・食味鑑定士協会が主催する世界最大規模のお米のコンペティション「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」の国際総合部門で10度の金賞を受賞した折り紙付きの「おいしい米」。「道の駅」ではそのお米を販売するほか、天栄米で釀した「本みりん」も置かれている。</p> <p>南米アンデス原産のヤーコンはキク科の根菜。しゃきしゃきした食感は天ぷらや煮物、炒め物、サラダで食するなどいろいろな食べ方があるからだにいい野菜だ。</p>
福島-16	南相馬	野馬追の里	南相馬市	国道6号	<p>南相馬市は平成18年1月1日、原町市と相馬郡小高町、鹿島町が合併して誕生した。旧市町ごとに地域自治区となっており、「原町区」「小高区」「鹿島区」に移行した。道の駅・南相馬は原町区内に立地し、地域住民と国道6号を通過するドライバーたちに利用されている。</p> <p>東日本大震災で起きた原発事故で全町避難を余儀なくされたが、「道の駅」はトイレや駐車場を開放し、避難や復興支援に駆け付けた自衛隊、機動隊、警察、民間ボランティアに施設を提供した。現在は元通りの形で営業を復活させている。</p> <p>南相馬市は3日間にわたって繰り広げられる歴史的祭典「相馬野馬追」の開催地。会場は「道の駅」から近いため販売品には野馬追グッズや野馬追イラストが描かれたパッケージの菓子、漬物、うどんなどが多く目を引く。人気は野馬追オールだ。</p> <p>レストランメニューは多彩で、麺、丼、カレーは単品だけでなくセットメニューも定食も多く、デパートの大食堂を思い出させ、選ぶのに困るくらいだ。ジェラート、ソフトクリーム、アイスクリームもあり、いろいろ選ぶことができる。</p> <p>物販・飲食以外のスペースもあり、貸しホール、調理実習室、ギャラリーがそろっていて、さおり織りや絵画、写真展など市民の趣味の発表などに活用されている。</p>
福島-17	しもごう	しもごうEmatto	下郷町	国道289号	<p>東北の「道の駅」では2番目の標高に位置する、860メートルの峰にある。福島県いわき市から白河市を経由し、南会津町、新潟県三条市、燕市、新潟市と続く国道289号沿いに建つ。白河市から甲子温泉、甲子トンネルを過ぎると突然のように現れ、初めて通る人を驚かす。秋の晴れた朝、「道の駅」から観た下界が一面の雲海に覆われることがあり、思いがけない絶景を披露してくれる。愛称の「Ematto(エマット)」とは、南会津地域の方言で「もっと」の意味。</p> <p>この国道289号をそのまま会津方面に下った先に、人気の観光地「大内宿」があり、その手前の大川沿いには崖が川の水で浸食されてできた「塔のへつり」もある。近くには湯野上温泉もあり人気の観光地となっている。</p> <p>レストラン「みくら」自慢の食は、地元猿楽台地で栽培された良質なそば粉を使用した手打十割そば。人気の天ざるそばの天ぷらは地元産の旬の山菜、野菜を使い量・味の良さに大満足と評判だ。また、会津地鶏親子丼、会津地鶏ラーメン、天ぷらまんじゅうなども人気となっている。</p> <p>テイクアウトコーナーでは地元の金子牧場のジャージー牛の生乳を使用したなめらかで濃厚なソフトクリームと、手作りのブルーベリーソフトクリームが大評判でリピーターが多く、テラス席で周りの山並みの絶景を眺めながら食事も楽しむことができる。</p> <p>お土産品として会津塗の漆器、陶芸、木工品もあるほか、名物ニシンの山椒漬け、棒たら煮、漬物など多種多様なお土産品を取りそろえている。</p>

県・番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
福島-18	ひらた	芝桜の里	平田村	国道49号	<p>道の駅・ひらたがある平田村は「日本一辛い村」を目指している。東日本大震災後の風評被害の嵐の中で、これなら風評に勝てるのではと農家のおばあちゃんがハバネロを栽培して「道の駅」に出荷した。あまりの辛さに売れ行きは芳しくなかったが、駅長はじめスタッフ一同は何とか売る方法はないかと試行錯誤を重ね、その結果激辛シリーズがスタートした。</p> <p>「ハバネロ戦隊カラインジャー」シリーズの激辛カレーやモツ煮込みの他、タバスコをもじった「ハバスコ」、「ハバネロ味噌」、「生き地獄ジャン」、「ハバネロ煎餅」、「ハバネロキャンディ」など盛りだくさん。</p> <p>中でもユニークなのがハバネロソフトクリームで、初級、上級、地獄級の3段階があり、完食率10%未満の地獄級は注文時に急書を書くことが求められるレベルだが、完食すると代金が無料になる。これらが話題となり、地元メディアのみならず全国的ににも数多く紹介された。現在は生産者や製造業者、流通業者、芸能人を巻き込んだ「日本一辛い村プロジェクト」を立ち上げ、全国展開に向け奮闘中。</p> <p>これ以外でも夏のアスパラ、冬の自然薯をはじめとする年間120種類に及ぶ高原野菜や、手作り加工品、地粉石臼挽きの手打ちそばが人気である。</p>
福島-19	よつくら港		いわき市	国道6号	<p>東日本大震災で起きた津波に直撃され、建物は残ったが店内は大きな被害を受けた道の駅・よつくら港。建物には津波が運んできた漁船が突き刺さり、店内まで大量の砂が入り込み、見るも無残な姿となつたが、さまざまな支援を受けよみがえった。</p> <p>「海を見ながら食事ができる道の駅」を標榜する。駅内の2階には4軒の食事処があり、いずれもおいしい食事を提供するとして知られている。「寿司処 和」では、四倉、久之浜港より仕入れた常磐ものの魚をつかつた、にぎり・ちらし寿司が一年中食べられる。魚を加えたミックスソースカツ丼や日替わり定食もおすすめ。「そば処 心平庵」では、川内村の高原で育つた「会津のかほり」100%の二八蕎麦を味わえる。石臼挽きならではの薫りとのど越しをが特徴である。「釜めし亭 心」では、一番人気の海鮮釜めしをはじめとした季節メニューを提供。スパイスにこだわった自家製海鮮カレーもおすすめ。「よつくら喜一」では、復興の足掛かりになればと喜多方「喜一」がのれん分けし、初の姉妹店としてオープンしお客様から喜ばれている。また、1階の直売所には野菜、果物、弁当、総菜、水産加工品、お菓子、スイーツ、種類、漬物とハイレベルな商品が並ぶ。</p> <p>子どもたちが自由に遊べる屋内遊び場「チャイルドハウス ふくまる」があり、天気に関係なく子どもを遊ばせることができると人気となっている。</p>
福島-20	ばんだい	徳一の里きらり	磐梯町	県道7号	<p>平成19年、当時の磐梯町長が、玩具メーカーの「BANDAI・ばんだい」という同名関係を町おこしにつなげられられないかということで、BANDAI社を訪問し、相談したことからきっかけで道の駅・ばんだい内に専門コーナーが設置された。コーナーの中心には約150センチの精巧なガンダムが置かれていて、その周りにはバンダイの商品が大量に並べられている。全商品10%オフとなっていて、ほかでは在庫がない品切れ商品もあることから、県外からの客もそれ目当てに訪問する。</p> <p>また、物販施設の一角に青森県むつ市コーナーも設けられている。幕末の戊辰戦争で会津藩は幕府方についたが、朝敵の汚名を着せられて本州の北端に追いやられ、斗南藩として入植・開拓にあたらせられた。困窮を極めながら北の大地を耕し、現在のむつ市などの基礎を築き上げた。その縁から、道の駅ばんだいではむつ市と交流を進め、特産品販売などで提携している。</p> <p>磐梯山東斜面に近い道の駅・ばんだいだが、令和3年から子供用貸しスキーを始めた。近くにファミリースキー場や人気スキー場があることから、貸しスキーは好評で、利用者に喜ばれている。</p> <p>また令和4年10月にはベーカリーコーナーがオープン。「Bandaiジエラパン」として「磐梯あんぱん」「磐梯リンゴパイ」「磐梯山メロンパイ」が人気・おすすめの磐梯山シリーズとなっている。</p>
福島-21	ふるどの	おふくろの駅	古殿町	国道349号	<p>道の駅・ふるどのは、もともと生産物直売所だった「おふくろの駅」が、平成22年3月に「道の駅」として登録された。</p> <p>直売所時代から新鮮野菜の販売や料理上手なお母さんたちの料理が評判だった。「おふくろ食堂」では、直売所に並ぶ野菜や山菜、きのこを材料にしたメニューを提供してきたが、なかでも自慢は本格的な手打ちそばとうどんで、揚げたての天ぷらも絶品！「おふくろそば」は歯ごたえがよく、素材の味を保ちつつ、カラッと揚がった天ぷらと、こしのあるそばとの相性がよく、そのおいしさは評判となっている。そばとうどんは温かいと冷たいのがあり、それぞれ天ぷら、山菜、盛り、かけなど種類も豊富で、丼や定食、カレーなどもある。</p> <p>店頭には古殿自慢の野菜や山の幸が並び、春は山菜が主役となる。古殿町はなだらかな山に囲まれた土地のため、天然ものの山菜に加え栽培にも力を入れる農家が数件ある。例えばハウス栽培での菜種油かすを肥料とした有機栽培などそれぞれ工夫を凝らしている。</p> <p>「道の駅」では春の山菜の1つであるウルイをうどんに練りこんだ「うるいうどん」を開発し限定販売して注目を集めている。山菜が大活躍する「道の駅」だが、林業の町でもある古殿町では、毎年秋に「チェンソーアート文化祭」を催して木の魅力を発信している。第一人者である城所ケイジさんに依頼して翌年の干支を制作してもらい、完成品が「道の駅」の前に置かれていて、毎年その作品を楽しみに訪れるファンがいる。</p>

県・番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
福島-22	番屋		南会津町	国道352号	<p>会津南部の標高1,900mを超える山々に囲まれた南会津町。道の駅・番屋は、国道352号沿いにある福島県側「尾瀬」への玄関口となっている。ここから尾瀬の入り口となる松枝岐までは約1時間。ドライブ休憩にちょうどいい立地だ。</p> <p>近くには古い町並みの保存状態が保たれている国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている「前沢曲家集落」がある。前沢集落はかやぶき屋根の曲家(まがりや)13棟を含む伝統的家屋27棟が建ち並んでいる。</p> <p>この町で食べられる館岩地区特産の「館岩在来種 十割そば」がおいしいと評判で、多くのファンがいる。道の駅・番屋では「館岩在来種 玄蕎麦とそば粉」を販売している。</p> <p>「道の駅」で人気のそばは「石臼挽きの十割そば」を使用したメニューで、「天ざるそば」「ざるそば」「温かいきさき揚げそば」に加え、「かき揚げうどん」「天ぷらうどん」などがある。また「カレーライス」と行者ニンニク餃子セット「そばがきを素揚げした「番屋揚げ」もおすすめである。</p> <p>「道の駅」の前にはソフトクリームの置き看板があるが、ここの隠れた名物が「そばソフトクリーム」。有機玄そばを使ったソフトクリームは、そばの香りが立ち上りてくると人気の一品。ベースとなるバニラは甘みが抑えられていて、バランスの良さが心地よい。</p> <p>お土産品の人気ナンバーワンは館岩名産の「蕎麦の実 クランチチョコレート」。また「行者ニンニク餃子」「南郷トマトジュース」「花嫁ささぎ」などの販売もしていて、お土産選びにことかかない。</p>
福島-23	季の里天栄		天栄村	国道294号	<p>道の駅・季の里天栄は道の駅・羽鳥湖高原と同じ天栄村にあり、東北自動車道の白河インターチェンジから国道294号を使って15分、須賀川インターチェンジから20分と近い距離にある。関東方面から車で来て、リゾートやアウトドア施設が多い羽鳥湖方面に向かう場合、多くの車がこの「道の駅」を訪れる。</p> <p>令和3年から「道の駅」のリニューアルに取り組んでおり、令和5年夏頃のオープンを予定していく、大きく魅力アップすることが期待されている。</p> <p>天栄村の人気の農産物は3つある。天栄米、ヤーコン、長ネギだ。なかでも天栄米は、生産者グループの「天栄米栽培研究会」の会員が、日本一美味しい米作りを目指し、無農薬、無化学肥料栽培による安全・安心な米を作ることを目的に、厳選した漢方土壌改良材を使用した「漢方環境農法」で栽培したもの。堆肥は有機肥料と漢方煎じ津を使用した有機資材を使用、栽培期間中の除草は除草剤を使用せず安全な米作りを徹底した。その結果、「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」で金賞を10回受賞した。</p> <p>ヤーコンは天栄村ヤーコン生産組合の特別栽培の認証を受け、有機肥料、ステビア資材を使つて栽培している。ステビア資材を使うことにより、新鮮さが長持ちし、薬剤などの使用量を減らすことができる。天栄村のヤーコンは日持ちがよく、ビタミン・ミネラルが豊富で安心・安全な農産物となる。</p> <p>また村内に2か所ある日本酒蔵元の地酒は、新酒鑑評会の金賞受賞蔵で、その人気の地酒を販売している。さらにスーパー野菜のマカの生産を始め、マカビールやマカカレーなど村の新たな食材のブランド化にも取組んでいる。</p>
福島-24	きらら289		南会津町	国道289号	<p>只見川沿いに走る国道252号を西会津町方面から南下していくと、国道289号に分かれて会津田島方面に向かう。その分岐点に道の駅・きらら289がある。</p> <p>国道番号を「道の駅」名としたわかりやすいネーミングで、地元では山口温泉という温泉名でも親しまれている。山口温泉は日帰り温泉で、泉質はナトリウム塩化物泉でかけ流し。切り傷、火傷、慢性皮膚病などに効能がある。浴室は「山桜の湯」と「リンドウの湯」があり、奇数日・偶数日で男湯と女湯が交代することになっている。どちらにも渓流を望む露天風呂があり、気泡浴・サウナ・源泉風呂などが楽しめる。</p> <p>レストランでは、「手そば」「トマトラーメン」などの名物料理を提供。「トマトラーメン」は地元製のちぢれ太麺で、スープは南会津生まれの「南郷トマト」を贅沢に使用したあっさりなのにコク旨で、7月半ばから、10月末は南郷トマトが、11月から7月上旬までは鳥チャーシューがトッピングされた冬バージョンとなり、以前からある「トマトラーメン」がバージョンアップした。さらに令和4年から新メニューの「トマトそば」が登場した。また、きらら289の名物に、「わらじソースカツ丼」がある。柔らかいロースカツをわらじに似せ、特製ソースをたっぷりかけた大きな2枚のカツがどんと乗った丼となっている。</p> <p>このほかの人気商品は南郷トマトソフトクリーム、南郷トマトジュース、南郷トマトロールケーキ。それぞれ本物のトマトジュースを使用した自慢の商品だ。</p> <p>また、令和4年に「北日光奥会津・道の駅きらら289 RVパーク」を開設した。福島県の「道の駅」としては道の駅・ならはと猪苗代と並び3か所目のRVパークとなった。</p>
福島-25	奥会津かねやま		金山町	国道252号	<p>磐越自動車道の会津坂下インターチェンジから国道252号を約30キロメートル、40分ほど走ると道の駅・奥会津かねやまがある。その間、車窓から見えるのが只見川で、汽車からも車窓からも、素晴らしい景観を楽しむことができる。特に新緑と紅葉時期の景色が素晴らしい、インバウンド客にも人気となっている。</p> <p>金山町は手仕事が盛んな町。特に山でとれるアケビ蔓(つる)、マタタビ蔓、クルミ蔓の蔓編み作業が盛んで、スケ類植物を燃って編むヒロ口編みとともに、手持ちかごの人気が高い。これらは「道の駅」で販売されている。</p> <p>「道の駅」にあるお食事処「こぶし館」での人気メニューは、「ソースかつ丼」「煮込みカツ丼」「煮かつ定食」などがあり、カツが2枚上げられている「ソースかつ丼ダブル」は男性客に人気となっている。</p> <p>そば類では「ざるそば」「アザキ大根高遠そば」「冷やし高遠どんぶりそば」がおすすめ。「高遠そば」は、アザキ大根という野生の辛み大根を薬味にしていただく蕎麦で、アザキ大根の辛さは折り紙付き。</p> <p>金山町は「えごま」栽培に力を入れている。一番人気は「えごま油」で、続いて「えごまドレッシング」「えごまパウダー」「えごまおからかりんとう」と続く。</p> <p>また漬物名人もたくさんいて、「道の駅」には色とりどりの漬物が並べられている。町内の山入山菜加工所のよっ子漬はわらび、きやらぶき、菜の花、キノコ、ウド、ゼンマイ、こごみなど。上田山菜加工所のおふくろ漬は高田梅を使った梅漬けで、カリカリ、やわらか、酸っぱい、甘い、いろいろな食感、味が楽しめる。名物「奥会津金山赤カボチャ」は格別な味のカボチャで、目にしたら買ったほうがいい。栗のようにホクホクした肉質の食感はたまらない。</p>

県・番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
福島-26	さくらの郷		二本松市	国道349号	<p>道の駅・さくらの郷のはじまりは「私たちのつくった野菜で地域を元気に」の想いで、何もない田んぼの真ん中にビニールハウスを建て、野菜を売り始めたそうだ。ビニールハウスから「直売所さくらの郷」になり、まもなく道の駅・さくらの郷として登録された。「道の駅」で提供されるコロッケ、おにぎり、おもちにピザ、うどんに至るまですべて手作りにこだわっている。</p> <p>この「道の駅」は、直売所、加工所、さくら食堂808、ピザ窯、漬物伝承室、体験交流施設、トイレ、屋外休憩施設、駐車場、小川・お散歩コース、桜回廊から成り立っている。</p> <p>桜回廊を名乗るだけあって、「道の駅」から日本最古のしだれ桜「三春滝桜」の孫といわれる「合戦場のしだれ桜」、その途中には、「新殿神社の岩桜」「福田寺の糸桜」、水を張った田んぼに姿がうつる「中島の地蔵桜」と見て回ることができる。</p> <p>この「道の駅」は元祖の二本松名物の「ごんぽコロッケ」のおいしさは格別。「ネギ味噌コロッケ」もあり、立ち食いでも、お土産でもOK。石窯焼きピザが食べただければ、店内で購入して、外にある「ピザ工房 石窯」に持ち込むと、巨大石窯を使って、ものの数分で焼いてくれる。持ち帰り用におすすめなのが、極太で一度茹でている「自家製うどん」や「つきたて餅」がある。</p> <p>この地域はそば産地のため、おいしいそばを「さくら食堂808」で堪能することができる。そばだけでなくうどんも数種類あり、なかでも名物は「けんちんうどん」豊富な野菜と豚肉をかき分けたと出てくる極太うどんはなかなかの迫力。秋冬限定メニューなので、阿武隈高原の寒さを吹き飛ばしてくれるだろう。</p>
福島-27	あいづ湯川 ・会津坂下	あいでみっせ 会津のへそ	湯川村	国道49号	<p>平成26年4月、会津盆地の地方の中心にできた「道の駅」で、阿賀川の「川の駅」も兼ねている。会津坂下町と湯川村という二つの町村によって作られた「道の駅」である。</p> <p>会津坂下町と湯川村は、会津若松市、喜多方市、会津美里町、西会津町などが隣接していて、どの町からも近く行きやすいため、「会津のへそ」ともいわれ「道の駅」の愛称にもなっている。</p> <p>駅内の「あいづ物産館」には、「会津のへそ」にふさわしく、会津地方のほとんどのお土産品や特産品が並べられているのではないかと思うほどぞろえが豊富だ。銘酒をズラリそろえた地酒の棚、400年以上の歴史を持つ会津本郷焼、絵ろうそく・赤ベニ・起き上がりこぼしなどの民芸品、織物の会津木綿、漆器の会津塗、最近では各地の地ビールも人気だ。伝統的なお菓子から、しゃれた和菓子と洋菓子のそろえも豊富で、発酵食品として味噌、醤油、漬物、会津の麹までそろっており、会津のこだわりが堪能できる。また「弁当」も数多く販売しており、さまざまなタイプの弁当が、日替わり定食のようにメニューが変わるので、飽きることがない。</p> <p>農家レストランでも会津の食文化の奥深さと豊富さを教えられる。伝統に裏付けられた郷土食、季節に彩られた魅力的なメニュー、最新のおしゃれなスイーツと魅力は尽きない。</p>
福島-28	からむし織の里 しょうわ		昭和村	国道400号	<p>駅名にある「からむし」とは別名「苧麻(ちよま)」「青苧(あおぞ)」とも呼ばれる伝統的織物の材料で、これを使った織物は日本ばかりでなく、昔から韓国や中国、台湾でも織られていた。イラクサ科の多年草で、高さは1.5メートルくらい。7月中旬から8月にかけて刈り取りし、水につけて柔らかくした上皮をはぎ取る。そして取り出した纖維を干して細く裂き、つないで長い糸にし、撚りをかけて丈夫にして機織機で仕上げる。大変な手間と時間がかかる作業で、織あがった布は上布(じょうふ)と呼ばれる高級織物になる。</p> <p>かつて東北各地で材料となる青苧を生産したり、織ったりする村がいくつもあったが、近年ではあまり作られなくなってしまった。そんな中、ここ昭和村では親から子へ手から手へと技術が伝わり、今なお生き続けている。しかし、村の人口減少で将来的にはからむしの技術が途絶えてしまうことが危惧されていたため、「織姫制度」というからむしの生産技術を学ぶ後継者を募集し、全国から女性たちが集まってきた。</p> <p>このからむし織をベースとして、体験交流施設「織姫交流館」、上布の原料となるからむし織の歴史を伝える「からむし工芸博物館」、郷土食を味わえる「郷土伝承館 孝麻庵」の3つの施設からなるミニテーマパークとして、平成26年に「道の駅」として登録された。</p> <p>「織姫交流館」の売店では、からむし織の帯、ショール、帽子、などの小物や、新商品の食べる「からむし」などの商品が人気ナンバーワン。ほかには昭和村特産の「かすみ草」、お餅を乾燥させ特別豪雪地帯の冬の寒さを利用し、冬の間中外に干し凍らせて作る、村のお母さんたち手作りの「凍み餅揚げ」なども販売している。またからむし織体験、からむしをテーマにしたワークショップも行われているので体験してみては。</p> <p>食事処「孝麻庵」では、「からむしラーメン」をはじめ、昭和村産「会津のかおり」を100%使用した「十割手打ちそば」、伝統の「ばんてい餅」「凍み草餅」「赤ハラ(ウグイ)揚げ」、「まんじゅうの天がら」などが評判である。</p> <p>「からむし工芸博物館」はからむしのすべて、からむしの歴史、過去に折られたからむし織りや生産用具の展示などを見学することができる。</p>

県・番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
福島-29	猪苗代		猪苗代町	国道115号	<p>平成28年11月オープンした「道の駅」で、猪苗代地域の特産品販売と食メニューの提供、会津のゲートウェイとして観光拠点としてぎわっている。磐越自動車道の猪苗代磐梯高原ICから1分という好立地にあり、高速道路のサービスエリアとしての役割も担っていることから、ETC料金据え置きのまま2時間滞在できる制度も適用されている(ETC2.0に限る)。この制度が適用されている「道の駅」は、東北では3駅だけである。</p> <p>また、豪雪・地震等のあらゆる災害リスクを抱える磐梯山の麓に総合防災拠点として整備された「道の駅」でもあり、令和3年8月には、国の新たな制度として始まった防災道の駅に、東北5か所の一つとして登録された。</p> <p>この「道の駅」は猪苗代湖、会津磐梯山、会津地域東の玄関口という絶好のロケーション。そのため、観光案内所には上記観光地に関係するパンフレット、マップなどの種類が豊富で、観光客に喜ばれている。</p> <p>食の提供は、「ダイニング I(アイ)」。「I」はINAWASHIROの頭文字から取ったもの。地元産の米を特注の羽釜で炊いており、おこげが混じった香りの良さと味が好評となっている。</p> <p>フードコート「猪屋(いのや)」では喜多方ラーメンの名店「喜一」監修の「塩チャーシュー」をはじめ、「猪屋特製ポークカレー」「牛乳ソフト」が好評だ。ほかにテナントも2軒あり、会津と猪苗代の食を提供している。</p> <p>お土産には、生クリーム入りのどら焼き「どらやの生どら焼き」、猪苗代産大豆あやこがねを使用した「磐梯黄金納豆」、フードコートで提供している喜一監修ラーメン「友情の一杯」が人気となっている。</p>
福島-30	国見あつかしの郷		国見町	国道4号	<p>福島県内を通る国道4号沿いに平成28年10月にオープンした。横に長い建物の屋根は波を打ったようにうねった形をしているが、これは町内にある国史跡「阿津賀志山防墾(あつかしやまぼうるい)」の連続した土壙をイメージしたもの。平泉を築いた藤原四代泰衡軍と源頼朝軍が戦った激戦の跡で、「道の駅」名にある「あつかし」とはこの「阿津賀志」をひらがな読みにしたもの。</p> <p>国見町はフルーツが有名で、特にモモの町である。物産館「くにみ市場」の売り場の多くをフルーツやその加工品が占めていて、町の果樹農家の意気込みが伝わってくる。サクランボに始まりモモ、بدورا، لینگو، کاکی، ایچigoなどがあり、一年中絶えることがない。</p> <p>国見町は阿武隈川が運んできた肥沃で柔らかな土壤に恵まれているため、美味しい根菜類ができる。ニンジン、ゴボウ、サトイモが自慢で、夏野菜も美味しい。そしてこのフルーツと野菜の加工品の種類が多く、ジャムやジュースはもちろん、ソフトやジェラート、スイーツなど盛りだくさん。サバの味噌煮とトマトを挟んだ「国見バーガー」は変わり種として話題になってしまっており、おすすめの一品。</p> <p>レストラン桃花亭で人気なのは「新鮮たまごのふわふわオムライス」「あつかし山防墾カレー」のほか、豚汁やおにぎりが食べられる。またレストランに隣接した「ももたんカフェ」では、洋風の軽食が食べられる。人気は季節のフルーツをたっぷり使った各種パフェとデザートプレート。</p> <p>2階は「国見STAY道」というホテルになっている。4部屋ありすべてツインタイプだが、グループやファミリー向けにエキストラベッドを加え最大4名まで宿泊できる。部屋とバスルームは大きめになっていて、とても快適に宿泊できる。</p> <p>1階には「子ども木育 つながるーむ」というキッズスペースや、コンビニがあり、至れり尽くせりの「道の駅」となっている。</p>
福島-31	いいたて村の道の駅までい館		飯館村	県道12号	<p>東日本大震災で発生した原発事故による放射能汚染の被害を受けた阿武隈山地中央部にある飯館村は、全村避難を強いられ、平成29年3月までの約6年間にわたった。平成29年8月にオープンした「いいたて村の道の駅までい館」は村の期待を背負っての開業だった。村の一部の避難解除はされたが放射能汚染のため農業は復活せず、「道の駅」では当たり前のようになっている産直は機能しなかった。そこで入館するお客様をお迎えたのは、「までいホール」の天井からバスケットに入れて吊り下げられた花々だった。飯館村では花を復興のシンボルとしたのだ。物販は全国の「日本で最も美しい村」連合に加盟している村から届く、特産品の数々が補ってくれた。</p> <p>村は「どぶろく特区」として認定されており、「どぶちえ」「白狼」というどぶろくのほか、「おこし酒」という日本酒の販売も行っている。</p> <p>食事は「MADEI KITCHEN(までいキッチン)」がオープンし、復活させた飯館産黒毛和牛を使った「ハンバーグカレー」「牛皿定食」などのほか、「いいたてまでい愚真会」による手打ちそばが人気。</p> <p>「わんこの庭 のびのび」というドックラン、多目的広場「ふかや風の子広場」と「秘密基地どきどき」という遊具たっぷりのキッズスペースを設け、さらに「道の駅」の周辺には現代アートや木彫アートなどが多く配置されている。今では大人から子供、ペットまでもが楽しめる施設となつた。</p>
福島-32	尾瀬檜枝岐		檜枝岐村	国道352号	<p>奥会津の中でも最奥に位置する「道の駅」で、平成29年4月に登録された。尾瀬国立公園への福島県側の玄関口になっていて、関東からも訪れる人が多い。村の中心部には登山客や観光客向けの民宿や旅館が建ち並び、村の大きな収入源となっている。</p> <p>「道の駅」として登録されたエリアは、村中心部に入る手前の尾瀬檜枝岐温泉スキー場の麓にあり、尾瀬・檜枝岐・嶽温泉案内所、尾瀬の郷交流センター「水芭蕉」、森の温泉館 アルザ尾瀬の郷、山人家などの観光施設がある地区だ。</p> <p>尾瀬の郷交流センター「水芭蕉」は物販施設とレストランを兼ねていて、檜枝岐名物「裁ちそば」を味わうことができる。「裁ちそば」とは、そば粉をこねて延して折りたたみ、包丁を引くようにしてそばを切る、かなりの技術を要する檜枝岐独特のそばの作り方だ。ほかに各種「そば料理」「岩魚フライ定食」「季節の天ぷら」、そば粉と餅米粉、5割ずつで練った生地を茹で、じゅうねん(えごま)をつけて食べる「はつとう」などを提供する。檜枝岐村のみやげ品も販売しているが、名物としては「ハコネサンショウウオの燻製」「岩魚味噌」「木工品」などがある。</p> <p>食堂である山人屋の「山人」は「やもうど」と読む。この村には「山人料理」という独特的の料理があり、山仕事をする男たちがそば粉、酒、味噌、塩を持って山に入り、自分たちで作る料理のことをいう。この食堂では「山人田舎セット」として山人料理の一端を提供している。このように、山と生きてきた村の多彩な一端に触ることができる「道の駅」だ。</p>

県・番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
福島-33	伊達の郷りょうぜん		伊達市	国道115号	<p>福島市などから東の方向にごつごつした岩山が見える。靈山(りょうぜん・標高825メートル)という、かつて山岳修験が盛んだった山で、いまはハイキングコースとして山の愛好家に親しまれている。この山と合併前の靈山町の名前を冠しているのが道の駅・伊達の郷りょうぜんだ。</p> <p>伊達市は果樹栽培が盛んで、隣接する国見町・福島市とともに伊達エリアのフルーツ王国を形成している。共通する一番の売りはモモだ。7~8月が盛期で、「道の駅」の前には臨時の販売テントが設けられ、モモの購入で大勢の人が押し寄せる。あんぼ柿の時期、ブドウの時期、イチゴの時期でも同じような現象が起き、まさにフルーツ王国である。</p> <p>この「道の駅」では食べ物の独自開発商品が非常に多い。スタッフによる商品開発のほか、市内の業者による持ち込み商品、さらに市内の業者さんと道の駅スタッフの共同開発とさまざまある。桃のジュース、あんぼ柿のブリオッシュパン、いちごサイダー、いちご大福などのフルーツを加工した商品が人気である。また、「翡翠めん」も有名で、伊達市靈山産の「靈山にんじん」を練りこみ、翡翠色にしたものである。</p> <p>レストランでは、有名ブランド鶏「伊達鶏」と地元の養鶏家が育てた「だてハーブ鶏」を使ったメニューがたくさんある。「伊達鶏釜飯」「だてハーブ鳥の親子丢」「伊達鶏とだてハーブ鶏のから揚げ定食」「伊達鶏ラーメン」がおすすめだ。ほかには「伊達の郷プレート」「伊達の手延べ風麺」など、珍しいメニューもある。</p> <p>また、片平ジャージー自然牧場直営の人気ジェラート店「まきばのジャージー」があるのも魅力のひとつである。搾りたての濃厚なジャージー牛乳をたっぷり使った手作りジェラートは、さっぱりしているのに濃厚な味わいと評判。注文を受けてから焼き上げるピザも登場した。ほかにも「りょうぜんパン工房」「つきたて餅 福乃月」牛タン専門店の「りょうぜん焼き本舗」「小手姫うどん」「Café de Repos」とお店が多く、食の魅力満載の「道の駅」だ。</p>
福島-34	なみえ		浪江町	国道6号・114号	<p>浪江町の復興のシンボルとしての期待を背負い、令和2年8月にオープンした道の駅・なみえ。東日本大震災の津波におそわれた後、原発事故で全町避難を余儀なくされたが、現在は徐々に復興が進んでいる。</p> <p>「道の駅」の正面に入ると地域情報発信室で、右手は「まちのパン屋さん」「ほのか」。震災前に町内にあったパン屋さんを「道の駅」内に再現させた。コッペパンに十数種類あるあんやクリームを選ぶとパンにはさんでくれる「おやつコッペ」がおすすめ。人気ナンバーワンは、極太のなみえ焼そばをはさんだ「なみえ焼そばパン」。</p> <p>産直コーナーの「いろいろ産直 いなほ」では浪江町内の新鮮野菜、請戸漁港に水揚げされた魚介類、さまざまな加工食品が並べられている。ここでしか買えない浪江産の「浜の輝 玉ねぎスープ」をはじめとしたオリジナル商品を取り揃えている。</p> <p>新鮮魚介類を堪能できる和食の「レストラン かなで」の一番人気は「なみえ焼そば+しらす丼」。「麺処ひろ田製粉所」では「味玉中華そば」が一番人気で、「道の駅」のラーメン屋のレベルを超えていると評判になっている。「ふくしまフルーツラボ」はレモンスカッシュやいちごミルクなどのドリンクの他、こだわりマグロの丼が味わえる。</p> <p>オープンから半年後の令和3年3月、グランドオープンを迎えた。「道の駅」への出店が全国初となつた「無印良品」、津波被害で山形県長井市に移転して酒造りを行つていた銘酒「磐城壽」の蔵元・鈴木酒造店、そして「青ひび」、「二重焼(ふたえやき)」、「走り駒」が特徴的な「大堀相馬焼」の体験販売施設が新たに加わった。ここでは陶芸体験教室も行つっている。</p>
福島-35	ふくしま		福島市	県道5号	<p>令和4年4月にオープンした、福島県で一番新しい「道の駅」。東北中央自動車道の福島大笹生(おおざそう)インターチェンジのすぐそばにある。前を通る県道5号の愛称は「フルーツライン」。その名の通り道路沿いにはサクランボ、モモ、ナシ、ブドウ、リンゴなどの果樹園が並んでいて、観光果樹園や直売所が多い。</p> <p>道の駅・ふくしまのロゴマークは福島市郊外の吾妻小富士に3月下旬頃に見られるウサギの形の残雪「雪うさぎ」をモチーフにしている。駐車場からもその景色を眺めることが出来る。</p> <p>直売所には、年間を通してフルーツがあふれんばかりに並べられており、フルーツを中心とした加工品やスイーツも多い。総菜コーナーには地域の食文化を反映した総菜から、おしゃれな洋風サイドディッシュまで、幅広いメニューが揃っている。</p> <p>食事処は、レストランの「あづまキッチン」をメインに、フードコートには大笹生の野菜を使うスパイスカリーの「大笹生カリー」、製粉所挽き立ての粉で作る麺や円盤餃子の「麺処ひろ田製粉所」、福島の漁港にあがる鮮魚や市場直送の魚介類料理を提供する「海鮮丼・寿司○(まる)」が並ぶ。また、スイーツショップ「FRUIT FACTORY yukiusagi」には、福島のフルーツをたっぷり使用したパフェやゼリー、タルト、ロールケーキなどが季節ごとに並び、スイーツ好きに好評だ。</p> <p>屋内施設の「モモRabiキッズパーク」は全天候型の遊戯施設で、隣接する屋外型の多目的広場」とともに親子で遊べる施設が揃っている。</p> <p>ほかにも、ドッグラン、レンタサイクルなどの設備もあり、買う、食べる、遊ぶが揃った「道の駅」となっている。</p>